
ウルトラペーパーマリオ～ヨゲン書の真実～

キルフィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウルトラペーパーマリオ〜ヨゲン書の真実〜

【Nコード】

N4521X

【作者名】

キルフィ

【あらすじ】

世界を襲う、新たなる危機！

今度の敵は「暗黒の騎士団」、それを率いるのはかつて恐れられた

「黒のヨゲン書」の執筆者！！

マリオたちの新たなる冒険が今、幕を上げる・・・

ストーリー重視のため、更新は遅いです。

ペーパーマリオシリーズの壮大なネタバレがあります。ネタバレが苦手な方は読まない方がいいです。

諸設定1（絶対見て下さい）（前書き）

これは謎に包まれた書物、黒のヨゲン書とその執筆者の真実と秘密、そして・・・それに関わる野望を止めようとするマリオたちの、新たな冒険のお話・・・

諸設定1（絶対見て下さい）

ペーパーマリオRPGとスーパーペーパーマリオのキャラ（主に敵の組織）を出してます。

以下、登場人物などの設定。が、公式キャラに関しては完全に妄想爆発。

捏造設定あり、オリキャラあり、色々とカオス。腐要素もありと言えはあり。

自己責任にて閲覧されたし。

《味方サイド》

マリオ 言わずと知れた、と言うより誰しもが知っているであろう、超有名なスーパースター。

善良な性格で正義感に溢れており、困っている人は放っておけない。

弟思いのいい兄貴。ピーチ姫のことが好き。

今回はシャインハートを集め、全世界の滅亡を企てる悪の組織、

暗黒の騎士団に立ち向かう。

ピーチ姫

キノコ王国のお姫様で、みんなのアイドル的存在。

一見おしとやかだが、かなり行動的な性格。優

しいが怒らせるととっても怖い。

マリオのことが好きだが、お互いに最初の一步が踏み出せていない模様。

今回はさらわれたルイージを助けるため、マリオと共に冒険する。

クッパ ピーチ姫誘拐犯でおなじみの、(自称)恐怖の大魔王。

今回もピーチ姫をさらいに来るも暗黒の騎士団の襲来に巻き込まれ、

オンヴァールに部下たちを全員奪われるという悲惨な目に遭う。

部下を取り戻し自分の世界を守るため、マリオと休戦同盟を組むことに。

ルイージ マリオの弟。そして永遠の二番手もとい、緑の人気者である。

普段は臆病なヘタレだがやればできる子で、優しさは人一倍。

いつものように留守番しているとところを暗黒の騎士団にさらわれてしまう。

さらわれた先でソーディルに出会い、彼の心を変えていく。

エマ 「スーパーペーパーマリオ」のヒロイン。

その後、人間に戻りルミエールと幸せに暮らしていたが
暗黒の騎士団にルミエールを連れ去られてしまい、マ
リオたちに同行することになる。

フェアリンになっていたときの力はいまだ健在で、仲
間をサポートする。

デイメーン 何故か生きていた、自称「魅惑の道化師」。その
正体は大魔法使いの息子。

以前のことで懲りたようで悪意や野望はなく、
完全に更生している。

本当に何故か生きていたが、ピュアハートの力
により以前に比べて弱体化した。

特に何もすることがなくて暇なのでついて来た
のだが、

そのせいで衝撃の事実を知ることになる。

バツガルフ メガバッテン軍団の総統。無くなった身体は復元
(というか修理) されている。

デイメーンと同様に更生しており、あれから
悪さはしていない。

以前に比べて人間味が増しているが、ちょっ
とヒステリックなところがある。

カゲの女王に敗れた後、再びアジトを作って
暮らしていた(月ではない)。

オンヴァールに洗脳された部下たちを助ける
ためマリオたちに同行する。

諸設定2（見ないと話が分かりません）

《敵サイド》

暗黒の騎士団
組織。

突如現れた、世界滅亡を目的に活動する謎の
ジスパール公爵が作り出した「ハザマ
城」を拠点としている。

組織構成はオンヴァールに洗脳された
クッパ軍団とメガバツテン軍団、

そして公爵ら幹部からなっている。

ジスパール公爵
執筆者。

暗黒の騎士団のリーダーで、黒のヨゲン書の
ヤミの一族の先祖にあたる青年。30
00年もの間封印されていた。

一見公爵とは思えないような軽い性格
と態度をしているが、

させると恐ろしい。

でもあり、

も頭を悩ませている。

ソーディルには彼の素性を知りながら
恐ろしいほどの魔力を持ち、世界の1

つぐらい一瞬で滅ぼすことができる。

純粹な悪者ではなく、世界滅亡への想いは彼なりの考えからきている。

オンヴァール

暗黒の騎士団の幹部。

公爵の妹で、彼に賛同し共に行動している。公爵が封印されたとき、それに巻き込まれて影だけの姿にされてしまったが

現在は身体を取り戻し、影を操る力を手に入れた。

それ以外にも以前から催眠術を使うことができ、

クッパ軍団やメガバッテン軍団のほとんどを洗脳して暗黒の騎士団に加えた。

暗黒の騎士団の紅一点（？）だけあり女性らしい性格。

また、ノワール伯爵のワルワル語の元は彼女。

ミラトード

暗黒の騎士団の幹部。

超能力の衝撃波や念力を使い、自分だけで戦うことができる初期のフェアリン。

知能は高く、公爵の力を認めてついてきたらしい。

もともとは怪力自慢の男だったが魔女の呪いで身体を失い、

魂だけでさまよっているところをフェアリンに
されてしまった。

卑怯な性格で目的のためならどんな手を使うこ
とも辞さないが、

公爵いわくそれはフェアリンとしての人格で、
本当の心はとても優しいという。

メアード 暗黒の騎士団の幹部。

もともとは悪夢の精であり、夢の中だけの存在だ
ったが、

公爵の力で現実の世界でも活動できるようになっ
た。

相手を眠らせたり夢を操ったりできる力があり、
基本的に夢の中で戦う。

意外に物知りで、公爵が寝ているときは彼に代わ
って他の幹部たちをまとめる。

自分や相手の記憶やイメージにある人物に変身し
て現れる。

本当の姿はなく、性別も定まっていない。

ソーデイル 暗黒の騎士団の幹部。また、公爵に仕える者の中
では唯一の召し使い。

体の一部を金属と融合させたり魔力で武器を作
ったりできる能力があり、

無数の剣と剣やレーザー砲と一体化した手を武
器とする。

に次ぐ実力者。

見た目は少年だが、暗黒の騎士団の中では公爵に次ぐ実力者。公爵には異常なまでに忠実で、彼に逆らう者は一瞬で始末してしまう。

だが当の公爵はそれを問題視しており、滅多なことでは戦闘要員として使わない。

強い力を持つが何故か心を堅く閉ざしていて、必要以上には全く口を利かない。

彼の過去は彼自身と公爵以外、誰も知らない。

プロローグ

ある世界のある場所にあるキノコ王国。

頻繁に（主にクッパかピーチ姫による）事件が起こるのが日常茶飯事のキノコ王国だが、

最近は平和そのものだ。

そのおかげであるマリオも、穏やかな時を過ごしていた。

誰もが知るキノコ王国の英雄、マリオ。

幾度となくピーチ姫を助け、そして幾度となく世界を救ってきた。

ルイージ「兄さん、この間の続き聞かせてよ」

マリオ「ああ、あのときは・・・」

事あるたびに大冒険を繰り広げては色々な人々に出会い、ときには危険な目にも遭っているマリオだったが、彼にとってはその全てがいい思い出だ。

それどころか、いつまでたってもまだ冒険しているような気がしていた。

あの黒のヨゲン書の騒動から、もう2ヶ月が経つ。

誰が書いたとも知れぬ黒のヨゲン書。あらゆる世界を滅ぼす力を持つ、恐ろしい本だ。

予言の執行人ノワール伯爵やコントンのラブパワーを奪ったディメーンを倒し、滅びかけた世界を救ったのは、やはりマリオたちだった。

世界の崩壊をまぬがれた後、黒のヨゲン書は再び歴史の影へと封印され、

最後の持ち主となったルミエールはその恋人エマと共に姿を消した。そうして黒のヨゲン書の恐怖はなくなったかに思われた。

・・・だが・・・。

? 1 「・・・発見致しました」

? 2 「彼が『ミドロのオトコ』・・・」

? 3 「んっふっふっ・・・『魂の器』にちょうどよさそうな奴も見
つかりましたよ」

? 2 「ありがとう・・・これで僕は・・・」

しかし今、それよりもさらに恐ろしいものがよみがえろうとしてい
た。

そう、このつかの間の平和など、嵐の前の静けさにすぎなかったの
だ・・・!!!!

第1話 クッパ襲来！急げマリオ！

しかし平穩もそう長くは続かない。
いつもの事件である。

そう、物語の始まりはいつもいつも、あの人たちであった・・・。

キノピオ「ママママリオさーん！！！！！！」

ルイージ「どうしたのキノピオ？」

キノピオ「たただ大変です！ クッパがキノコ城に！ あいつまた
ピーチ姫をさらうつもりですよ！」

マリオ&ルイージ「『また』とか言っちゃダメだろ！／でしょ！」

マリオ「でも……とりあえずまださらわれてないんだろう？」

キノピオ「ええ……今のところは……。」

マリオ「だったらさらわれる前にクッパをこらしめてやるさ！」

キノピオ「さっすがマリオさん！」

ルイージ「それでボクは留守番か……。」

マリオ「それじゃ行ってくる！ 頼んだぞルイージ！」

ルイージ「何もないと思うけどね……。」

そんなこんなでマリオはクッパを倒してピーチ姫誘拐を防ぐべく、キノコ城へと向かうのだった。

第2話 キノコ王国に大異変・・・！？

数分後マリオはキノコ城に到着し、急いで城内を駆け抜けてピーチ姫を探した。

そして城の最上階で、やっと見覚えのある人影を見つけた。

ピーチ姫だ。

マリオ「ピーチ姫ー！！！」

ピーチ姫「マリオ！ 来てくれたのね！」

そしてまたもう1人、見慣れた人物がいた。
そう、皆さんご存知の大魔王クッパである。

クツパ「わ、我輩は何もしておらんぞ！」

マリオ「・・・！！ 城が崩れる！2人とも逃げよう！！」

突然襲った凄まじい地響き・・・。
一体何が起こったのだろうか？

第3話 謎の大地震、そして・・・

キノピオ「マリオさん！マリオさん！」

キノピオに起こされて気がつく、マリオたちはガレキの山の中に倒れていた。
どうやらキノコ城の倒壊に避難が間に合わなかったようだ。

マリオ「ううん・・・。」

ピーチ姫「2人とも・・・大丈夫？」

マリオ「！！！！！！それより・・・あれを・・・！！！！」

ピーチ姫「こ……これは……!?!」

・・・・立ち上がった3人の目に飛び込んできたのは、辺り一面の焼け野原だった。

キノコ城の周囲にあった城下町が、跡形もなく消え失せているのだ。町があったはずの場所にはガレキの山と化し、そこに住んでいたキノピオたちが何人も倒れている。

マリオ「みんな、大丈夫かっ!?!」

キノピオ「ええ、なんとか……。」

マリオたちの周りに、起き上がったキノピオたちが次々と集まってくる。

そこでピーチ姫が妙なことに気付いた。

ピーチ姫「みんな・・・何ともなさそうね・・・。」

そう、あれほどのことがあったにも関わらず、誰にも傷一つないのだ。

町にあった建物という建物が全壊するほどの衝撃があったというのに、である。

あまりにも不自然だろう。

皆がお互いの無事を喜びつつも考え込んでいると、突然上空から声が降ってきた。

？「クツパさまーーーーー！！！！！！」

クツパ「む、カメツクババではないか。そちらでも何かあったのか？」

カメックババ「クッパ城が得体の知れない女に襲撃を受けて大変なことに・・・。」

とにかく城へお戻りになってくださいですぢゃ！」

クッパ「何っ！？ ならばなぜ早く言いに来ないのだ！」

カメックババ「それが・・・その直後にあの大地震が起きて・・・。」

クッパ「まあいい・・・とにかく城へ向かうぞ！」

ピーチ姫「マリオ、私たちも行きましょう。」

マリオ「え？」

ピーチ姫「なんだかこの一連の事件、偶然とは思えないの・・・。」

マリオ「・・・分かりました。 行きましょう。」

こうして多くの謎と不安を抱えながらも、一行はクツパ城へ向かう。そしてそこで、ピーチ姫の悪い予感は的中することになるのだった。

第4話 変わり果てたクッパ城と囚われのルイージ

マリオ「こ、これは・・・一体・・・。」

クッパ城にたどり着いた一行が見たのは、目を疑う光景だった。まず、扉を開ける前までは特に変わった様子はなかった。だが、城の中だけが真っ白で何もない空間に変わっていたのだ。

ピーチ姫「ねえ・・・これって・・・。」

この景色を見た3人の脳裏に真っ先に思い浮かんだのは、崩壊後の世界だった。

真っ白な景色といい、何もない空間といい、以前の冒険の中で一度滅んでしまったモノノフ王国に酷似している。

クッパ「しかしどうしてこんなことに？　ワガハイにはわけが分から・・・」

ルイージ「にいさーーーーん！！」

クッパの言葉が城の奥から響いてきたルイージの悲鳴にさえぎられた。

マリオ「ルイージ！？　いるのか！？」

3人が声の聞こえた方へ進んでみると、ちょうど城の中央あたりに何かが見えてきた。

ルイーザらしき人物が宙に浮かんでいるのだ。

マリオ「ルイーザ!！」

ルイーザ「……………!!！」

よく見ればルイーザは四角いバリアの檻に閉じ込められていた。
何か叫んでいるようだが声がバリアに阻まれているのか、何を言っているのか全く聞こえない。
しかしとにかくこのままにしてはおけないとばかりにマリオが近づいたそのとき、
ルイーザが檻ごとくると回転し、そのまま消えてしまった。

マリオ「ルイーザ!?　　今のはまさか……次元魔法!？」

？「ワルワルワル・・・その通りよ！」

城内に響く、謎の女の声。

この声の主が一連の事件の犯人なのだろうか？

第5話 暗黒の騎士団

数秒後、声の主は先程と同じ次元魔法を使い姿を現した。

風変わりなドレスを着た女で、髪がマントのように見えるくらい異様に長い。

さらには肌が青色をしており、腕が存在せず胴体と手が離れている。その風貌と次元魔法を使えることからして、明らかにキノコ王国の住人ではなさそうだ。

？「ワルワルワルワルワル・・・これで準備は全て整ったわ。」

クツパ「お前・・・何者だ!？」

？「ワルワルワル・・・ワタシの名はオンヴァール・・・『暗黒の騎士団』の1人よ!」

ピーチ姫「オンヴァール・・・！？ 暗黒の騎士団・・・！？」

マリオ「どこの誰だか知らないが・・・ルイージを返せ！！」

オンヴァール「それはできないわ。彼は全世界を滅ぼすために必要な存在なの。」

マリオ「全世界を滅ぼすだって！？ どういうことだ！？」

オンヴァール「ワルワル・・・それはワタシも今は知らないわ。でも必要なことは確かなの。」

そろそろ他のメンバーも仕事を終えているようね。

あなたたちとはいずれ戦うような予感がするけど、今は引くことにするわ・・・。

さよなら・・・ワルワルワルワル！！」

そう言い終わると同時にオンヴァールと名乗る女は一瞬で姿を消し

た。

その様子をマリオたちは、なす術もなく呆然と見ているしかなかった。

『暗黒の騎士団』は何かとてつもなく恐ろしいことを始めようとしている。

今、3人に分かることはただそれだけだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4521x/>

ウルトラペーパーマリオ～ヨゲン書の真実～

2011年11月24日14時47分発行